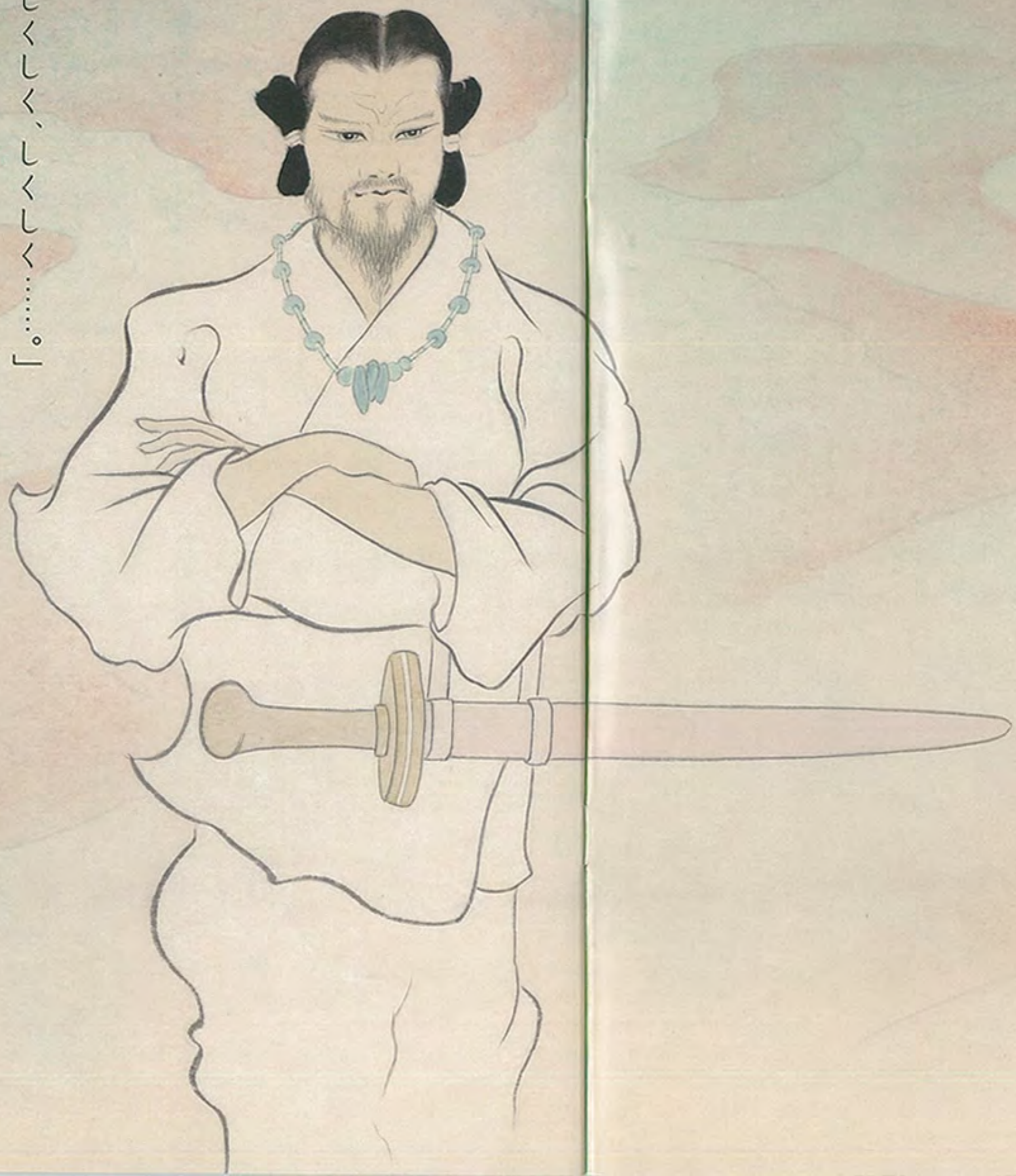


八岐大蛇



昔々、須佐^{すさ}之男^のという名の強い神様がおりました。
その神様が出雲の国を旅していたときのお話です。



「しくしく、しくしく……。」

須佐之男が川のほとりを歩いてしていると

どこからか泣き声が聞こえてきました。

須佐之男があたりを見回すと

お爺さんとお婆さん、そして美しい娘が

泣いているではありませんか。

「どうして泣いているのだ？」

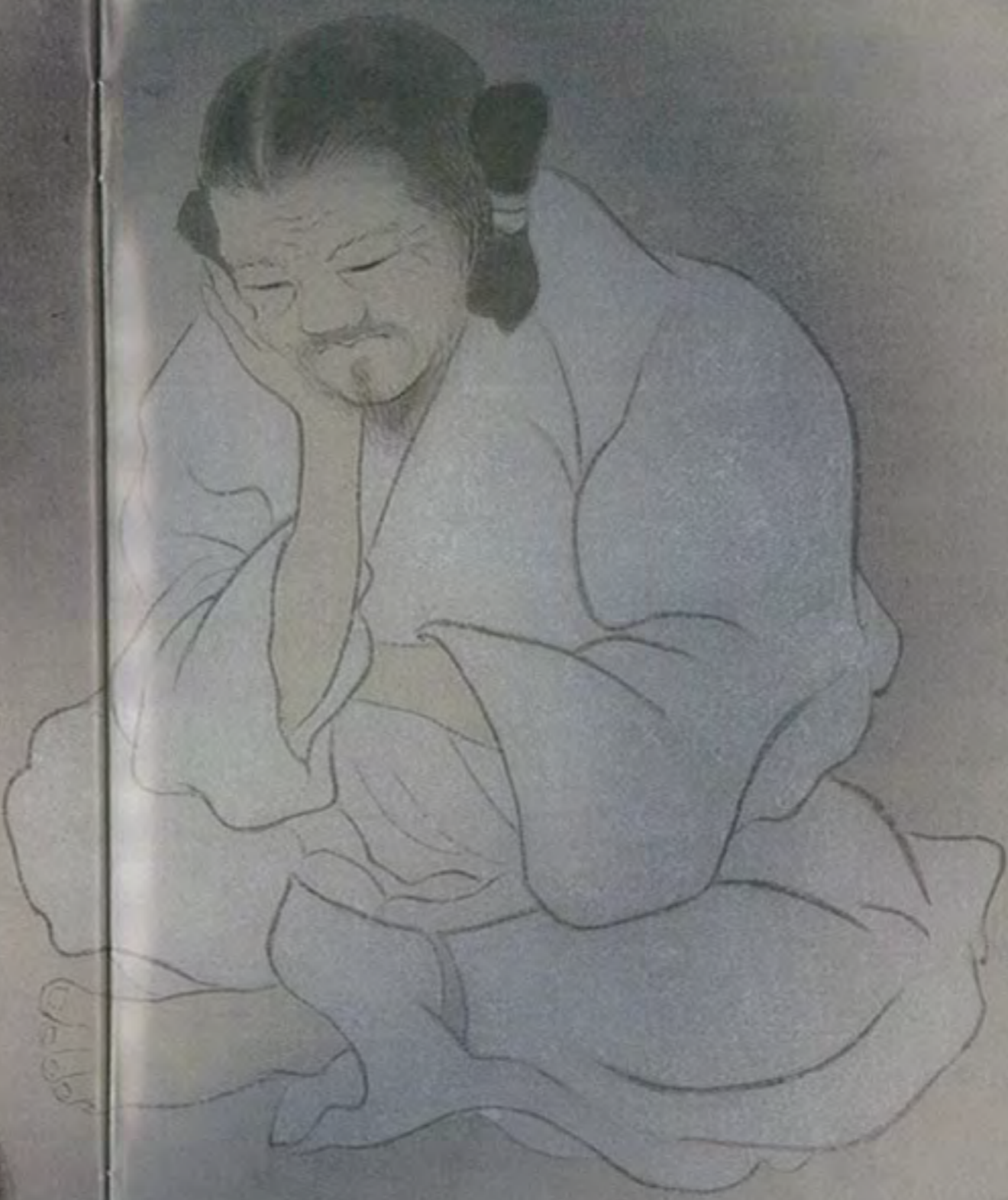
須佐之男すさののおが聞くと、お爺さんが答えました。

「娘が八人おりましたが、

毎年遠い国から八岐大蛇やまたのおろちがやってきて

一人ずつ喰ってしまおうのです。

このままではこの櫛名田比売くしなだひめも喰われてしまいます。」



わけを聞いた須佐之男は

「八岐大蛇とはどんな姿をしたものか。」

と、尋ねました。